

資料

チュウジシギ *Gallinago megala* の群馬県における確実な記録

清水伸彦¹・姉崎智子¹

¹群馬県立自然史博物館：〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1
(anezaki@gmnh.pref.gunma.jp)

要旨：2015年9月18日群馬県前橋市荒牧町で1羽のタシギ属の鳥が保護され、群馬県傷害鳥救護施設に収容されたが20日に死亡した。本個体は、尾羽の枚数・形・色や自然翼長のサイズからチュウジシギと同定された。これは、標本を得られるなどして確実に同定されたチュウジシギの記録としては群馬県初の記録である。

A reliable record of Swinhoe's Snipe, *Gallinago megala* in Gunma Prefecture

SHIMIZU Nobuhiko¹ and ANEZAKI Tomoko¹

¹Gunma Museum of Natural History: 1674-1 Kamikuroiwa, Tomioka, Gunma 370-2345, Japan
(anezaki@gmnh.pref.gunma.jp)

Key Words: Swinhoe's Snipe, *Gallinago megala*, Gunma Prefecture

はじめに

チュウジシギ *Gallinago megala* は、南東シベリアのエニセイ川上流からモンゴル北部、バイカル湖周辺、アムール川流域、ウスリーにかけての地域で繁殖し、インドから東南アジア、中国南東部、フィリピン、オーストラリアにかけての地域で越冬する (del Hoyo et al., 1996; 日本鳥学会, 2012)。日本では旅鳥として全国で記録があり、湖沼や河川、水田、湿地などに生息するが記録は多くない (日本鳥学会, 2012)。群馬県内では不定期な旅鳥であるが、本種は野外識別が困難なため県内への渡来状況については不明であり、種の同定が確実な記録はまだ無い (日本野鳥の会群馬, 2020)。筆者らは、群馬県立自然史博物館に提供された斃死体を標本化する過程で本種を見出した。この個体が群馬県内で確実に同定されたチュウジシギの初記録であると考えられるので報告する。

検体の入手方法と種の同定

本個体は、2015年9月18日、群馬県前橋市荒牧町で保護され(足に出血あり/猫がくわえた、とのメモ書きがある)、群馬県傷害鳥救護施設に収容されたが、9月20日に死亡した。検体は冷凍保存され、2015年12月8日にオオハシシギとして群馬県立自然史博物館に提供された。2016年1月14

日に標本化作業が行われ、各部の計測後、羽毛標本(図1)と翼標本(図2)、骨格標本として収蔵された(収蔵番号GMNH-VA-3216)。

本個体は嘴が長く、ずんぐりした体形で、上面は淡褐色の地に暗色と明色の細かい斑が入っていた(図3)。尾羽は左右非対称で21枚あり、体形に比して短く、全体的に黒褐色で、中央の4対は先端付近に橙色の太い横斑があり、外側の6対は全体的に黒褐色で、幅が狭く細かった(図1)。嘴は直線的で長かった。翼上面は、雨覆と三列風切は体の上面と同様の色彩であったが、初列風切と次列風切および初列雨覆は一律な暗褐色で、先端はわずかに白かった(図2)。翼下面は白色で、黒褐色の細かな横斑が一面にあった。検体の各部を計測した結果、自然翼長は141mm(右翼)または139mm(左翼)、尾長は59mm、跗蹠長は30mm、露出嘴峰長は60mmであった。自然翼長と尾長は物差しを用いて1mm単位で計測した。跗蹠長と露出嘴峰長はノギスを用いて0.1mm単位で計測した。体重は102.9gであった。

本個体は長い嘴とずんぐりした体形、長い脚をもつことからチドリ目シギ科である (del Hoyo et al. 1996)。嘴が直線的で長く、上面が淡褐色の地に暗色と明色の細かい斑が入り、胸から腹が白色で暗色の横斑があることからタシギ属 *Gallinago* である (del Hoyo et al. 1996)。

タシギ属のうち、日本に渡来するのは、アオシギ *G. solitaria*、オオジシギ *G. hardwickii*、ハリオシギ *G. stenura*、

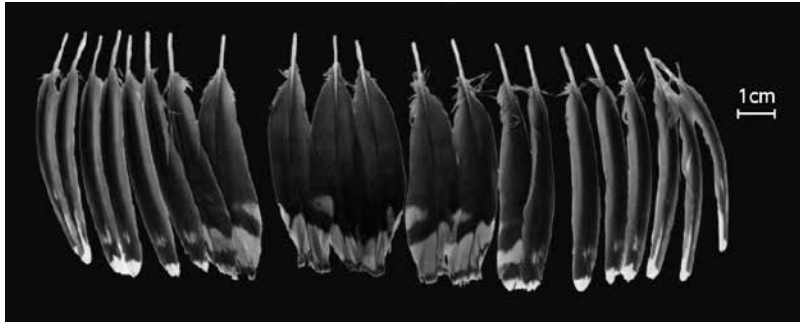


図1. 群馬県で保護されたチュウジシギの羽毛標本（群馬県立自然史博物館，収蔵番号GMNH-VA-3216）.

Fig.1. The feathers specimen of Swinhoe's Snipe collected in Gunma Prefecture. This specimen owned by the Gunma Museum of Natural History (Specimen number: GMNH-VA-3216).



図2. 群馬県で保護されたチュウジシギの翼標本（群馬県立自然史博物館，収蔵番号GMNH-VA-3216）.

Fig.2. The wing specimen of Swinhoe's Snipe collected in Gunma Prefecture. This specimen owned by the Gunma Museum of Natural History (Specimen number: GMNH-VA-3216).

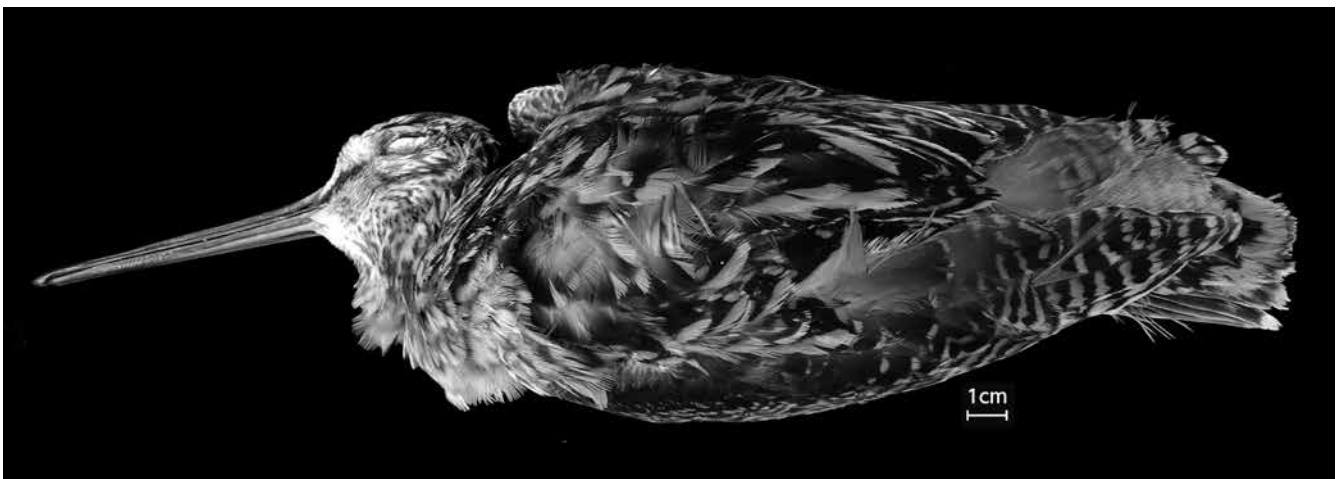


図3. 群馬県で保護されたチュウジシギの死体.

Fig.3. The deadbody of Swinhoe's Snipe collected in Gunma Prefecture.

チュウジシギ、タシギ*G. gallinago*である（日本鳥学会，2012）。このうちアオシギは全体の斑紋は他のタシギ類より細かく密であり暗色に見えること、背や翼は青灰色を帯びることなど（日本野鳥の会，2015）から明らかに本個体と異なる。ハリオシギは外側尾羽6-8対が極端に細く（先端の幅1-2mm）針状であること、尾羽は通常26枚であること（山階鳥類研究所，1988）から本個体とは異なる。タシギは次列風切の先端に幅広い白帯（5mm）があること、尾羽は通常14枚であること（山階鳥類研究所，1988）から本個体と異なる。

識別が困難なのはオオジシギとチュウジシギであるが、オオジシギの尾羽は14-19枚で16枚-18枚の個体が多いのに対し、チュウジシギは尾羽が18-26枚で20-22枚の個体が多い（山階鳥類研究所，1988）。また、自然翼長はオオジシギが143.4-153.3mm（n=15）であるのに対し、チュウジシギでは123.4-140.0mm（n=7）である（山階鳥類研究所，1988）。しかし、山階鳥類研究所（1988）の計測値は例数が少ないため範囲が過小評価されており、実際には自然翼長にも重複範囲がある（深井ほか，2018）。本個体の右翼の自然翼長は、山階鳥類研究所（1988）の計測値ではどちらの種の範囲にも属さないが、左翼の自然翼長と尾羽の枚数はチュウジシギに該当した。また、外側尾羽が全体的に黒っぽく、先端の白斑以外には白斑がほとんど無いこともチュウジシギに多く見られる特徴で、オオジシギでは稀である（氏原・氏原，2004）。以上のことから、本個体はチュウジシギに同定される。

なお、雨覆全体が鱗模様に見える幼鳥のパターンを示していること、内側大雨覆の横斑が淡色で濃色の地色とコントラストが強い幼羽であることから（山階鳥類研究所，1988）、この個体は幼鳥であると考えられる。なお、生殖腺の確認ができなかったため、この個体の性別は不明である。

付記

ジシギ類（タシギ属からアオシギを除いた4種のシギ）は野外識別が困難であるため、県内におけるチュウジシギの確実な記録は無かった（日本野鳥の会群馬，2020）。観察以外の記録は、1997年10月20日に伊勢崎市上植木本町で保護され、桐生が岡動物園に収容された例があるが（日本野鳥の会群馬，2020）、形態的特徴の記録や写真などについては不明で、同定結果を検証できない。また、群馬県立自然史博物館には県内で採集された可能性がある古い本剥製標本（収蔵番号GMNH-VA-16）があるが、採集地や採集

日の記録はない。

環境省のモニタリングサイト1000調査の一環として、伊勢崎市の水田地帯で休耕田に生息するシギ・チドリ類の調査が毎年秋に実施されているが、オオジシギの渡来期である8月-9月上旬を過ぎた後にもタシギ以外のジシギ類（おそらくチュウジシギと少数のハリオシギを含むと考えられる）が一定数記録されているため、県内にも少なからずチュウジシギが渡来している可能性が指摘されていた（日本野鳥の会群馬，2020）。近年、撮影機材の発達により、野鳥の鮮明な画像の撮影が容易になってきたが、タシギ属の各種は野外識別が容易ではなく、識別点が撮影されにくい部位であることや、同定には計測値や尾羽の枚数といった手に取らないとわからない情報が必要であるため、今後も保護個体や斃死体の確実な同定と、死体の標本化が重要である。

謝辞

本稿作成にあたり、深井宣男氏には、種の同定や文献の収集に関してご教示いただいた。記して感謝申し上げる。

引用文献

- del Hoyo J, Elliott A and Sargatal J, eds, (1996) : *Handbook of the Birds of the World. Vol. 3. Hoatzin to Auks*. Lynx Edicions, Barcelona.
- 深井宣男・小田谷嘉弥・吉田邦雄(2018)：栃木県におけるチュウジシギの初記録，渡良瀬遊水地においてオオジシギとして標識放鳥したジシギ類の再検討。 *Accipiter*, 23: S1-S5.
- 日本鳥学会(2012)：日本鳥類目録改訂第7版。日本鳥学会，三田，438pp.
- 日本野鳥の会(2015)：フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂新版。日本野鳥の会，東京，392pp.
- 日本野鳥の会群馬(2020)：群馬県鳥類目録改訂版。(オンライン) <http://www.wbsj-gunma.org/mokurokuver1/mokurokuver1.4.pdf> 2021.05.15 閲覧.
- 氏原巨雄・氏原道昭(2004)：シギ・チドリ類ハンドブック。文一総合出版，東京，66pp.
- 山階鳥類研究所1988)：鳥類標識マニュアル(識別編 No.5)タシギ属4種の識別。山階鳥類研究所，我孫子，p. 5-9

